

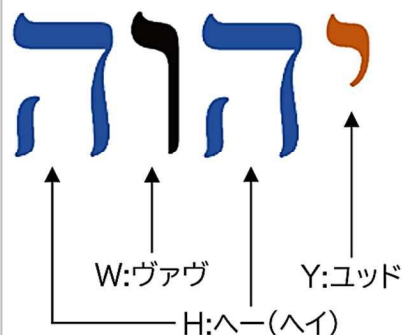


シオンの城壁の上の見張り人たちは、救い主の来臨の知らせを最初に認め、最初に声をあげてその近いことを宣言し、人々に、その来臨のための準備をするよう最初に警告を発すべきであった。しかし彼らは、安易な気持ちで平穩無事の夢をむさぼっていた。そして人々は、罪のなかで眠っていた。**イエスは彼の教会が、葉ばかり数多く茂っているが、貴い実のなっていない、実のない、いちじくの木のような状態であるのを見られた（数の多さを望んではいけない、仏法にすべてをささげる人がいてこそだ。永平寺禅問答より）。宗教の形式は遵守してそれを誇っていたが、真の謙そん、悔い改め、信仰の精神は欠けていた。**

実はこれらだけが、神に喜ばれる礼拝であったのである。聖霊の実の代わりに、高慢、形式主義、虚栄、利己心、圧迫などがあらわれていた。背信した教会は、時のしるしに対して目を閉じてしまった。神は、彼らを捨てたり、誠実を曲げたりなさらなかった。しかし、彼らは神から離れ、神の愛から離反したのである。彼らが条件に従うことを拒んだ時に、神の約束は、彼らに果たされなかったのである。

神がお与えになる光と特権を、感謝して受けて活用するようにしないならば、必ずこのようになる。教会が、すべての光を受け入れ、啓示されるすべての義務を行って、神の摂理の導きに従っていかないならば、宗教は必ず形式化して、墮落し、生きた敬神の精神は失われるのである（教会は、神の招きに応じて集まり、キリストと共に生き、奉仕しようとする者、そして互いに励まし合う者の群れであって、単なる親睦クラブではありません）。このことは、教会の歴史において、くり返し起こった。**神は、受けた祝福と特権に相応する（相応しい）信仰と服従の行為を、神の民に要求される。**服従は犠牲を要求し、十字架を伴っている。多くの自称キリスト信者が、天からの光を受けることを拒み、昔のユダヤ人のように、神のおとずれの時を知らなかったのは、このためである（ルカ19:44）。彼らが高慢不信であったために、神は彼らを素通りして、ベツレヘムの羊飼いや東方の賢者たちのように、示されたすべての光に心を留めていた人々に、神の真理をあらわされたのである（各時代の大争闘 第17章 最大の希望 教会の覚醒と再臨を迎える準備、バプテスマ・ガイド「バプテスマの誓約9」より）。

ヤハウェ(ヘブライ語: יהוה)



モーセに啓示された神の名、唯一神、万物の創造者の御名(ユダヤ教およびキリスト教における唯一神の御名)である。

この名(ヤハウェ)は YHWH の4文字で構成され、テトラグラマトン(聖四文字)と呼ばれます。

右から左に読み書きされるヘブライ文字の4つはそれぞれ、次のように読みます。➡ Y: ユッド、H: ハー(ハイ)、W: ヴァヴ、H: ハー(ハイ) 日本語ではヤーウェ、ヤーヴェ、エホバ等とも表記されます。

聖書にある自然【アーモンド】



アーモンドの花



実は毛に覆われている→



アーモンドは聖書に9聖句(15か所)登場する。→創世記30:37,43:11、出エジプト25:33, 34, 37:19,20、民数記17:23、コヘレト12:5、エレミヤ1:11

エレミヤ書 1:11 主の言葉がわたしに臨んだ。「エレミヤよ、何が見えるか。」わたしは答えた。「アーモンド(シャークード)※1の枝が見えます。」

※1: アmendou=シャークード(ヘブライ語)=見張る者

